

非暴力直接行動

157

7/1

1988

発行・(WRI)ウリ・水田ふう・向井孝・大阪市あべの区旭町1-1307(647-4089)

WAR RESISTERS INTERNATIONAL JAPAN

振替 大阪・一三二七三七 ウリジャパン

富山金沢行動から島根へ引継ぐと

①

「まだ一番だじくやるわ」

● おいちちゃんも、こんどの富山金沢行動には力を入れてたね。

◆ うん。2月の高松、4月の東京と、大きな盛り上りの波があって、その大波のあとには毒が生まれてるわけだから。

◆ その毒を伝って、各地で、これから大小の波が起ってくるし、また起きるならん。

● その波がこんどは「能登」...

◆ もちろん東京のあとやかからいうて、五千も一万もは望めんけど、しかし、1月25日の高松規模ぐらいいならんし、「波」やいっても、いままでががんばってきた現地小数の反対



人の世は地獄の上の花見かな

ふう & ふう

派や、その地許グループの人らがガツクリきてしまうわ。

● そんなことになったら、これからの彼にもひびくし……

◆ ここはいっちょ、従来の現地主義的な「結集」つまり呼びかけがあるからいく、いうんやなくて、自分のこととして、能登をカンバルということやな。

● 6月の能登のあと、7月は島根の彼がすでにみえてきている。

◆ この彼をどぎれんようにつなぎながら、着をだんだん大きくし、せせらぎから川となっていくのに、あと半雪。いまが一大大事なところやねん。

● けど、うち毎月でないにしろ、中仕事休んでたら、ワビになるワ。お金もないし……

◆ そら、自分ひとりで背負ってやるもんちやうねんから、無茶なムリはせん方がエエ。そんなときは、自分の分もほかの人がやってくれると確信するのが「自由連合」や。

● そうやな、うち、次の松江にはいかれへんから、大阪で「電話作戦」(後注)やるわ。

◆ こんどの島根で6月の能登の経験が伝わって、それで島根の行動が一步も二歩も前進した、といえるような、運動の「やり方」のつかやねんがつくれたらエエなあ……

● そいで、またちよっと力を入れてるんか。

● その島根のあとを「泊」へとしつかりつなげたら、もうっしめたいもんやな。

「負け、まちがいないし！」

● 富山では北電本社、金沢では石川県庁、集めた10万3千の署名を渡していくというのが今回の行動の中心……

● その署名をわたすについて、「納得いくまで話し合いしたい」という申入れで、まずもめたのが、何人交渉の代表として認めるか……

◆ 高松でも、東京でも、それでもめた。

● 向うがもうさんざんやってきたお定まりの古いキヤ。

● それ正確に云うたら、こっちがいつも同じ手でいくから、向うもいつものキエつこて、平然としておられる……こっちや。

◆ 人数でもめて、交渉時間の制限でもめて、社長出世、知事出世でもめて、あきらめて、やっと本題にはいったかと思うと、拘子丈規な子供だましの回答で、誠意がないともめて、肝じんのことはまるで云わんうちに時間切れ……

● いつも必ずそうや。

● そうやのに、誰もこのやり方おかしい、というもんない。

◆ いや、みな内心、おもしろくないなあいうてると思うで。

● けど、みんな今までどおりの、決った手をうつもんやと思ってる。必ずその手は雪千金詰めやとわかってるのに。

● 目先きの一手だけしか考えてへんもんなあ……

● そやけど「雪千金詰」がわかってて、その手をうつのは、敗けにいくようなもんやで。

◆ そうや。敗けんと思たら、その基盤ひっくりかえすしかないで。

◆ エー!! それ、やぶれかぶれの、まるでケンカ売りにいくということやんか。

◆ そうや。向うが買ったらケンカになる。

◆ そりやまずいわ。こちらはあくまで「何どでも納得するの話し合いをしよう」というてゐるわんで。

◆ ケンカ覚悟でこのむいたら、仲うちから文句がでる。

◆ そんな、問題は。そもそもケンカどころか戦争しかけてゐるのはむこうやねん。

都合の悪い住民投票は、県の役人が燃やす。 反対運動が強い西



海漁協

への漁

業権の

許可を

左右し

て川辺

組合長

をやめ

させる。

それ

まで相

手にし

ていた八漁協のうち、四つは温排水の影響よう外やと切りすてて、補償交渉をやりやすくする。

北電は、安全審査の許可もなしで事実上の工事を始める。

このサギ、ペテン、無理強行が、ケンカを売ってゐるのでうて、

何やいうねん。

◆ ほんまに、一体何が「話し合い」や。

◆ そもそも話し合いというのは、双方が対等ではじめて成立するもんや。

◆ 「労資の話し合い」など云う場合は違ふねんな。

労組やったら「スト権」いうものもあって、曲りなりにも対等の話し合いができる。何の圧力も持たず考えず「話し合いしろ」云

うても、先方には負け太の遠吠えで「うるさい」だけのもんやろ。

◆ つまり、ぼくらが云う「話し合い」は、「どうが話し合いして下さい。お願い申します」という、「みじめな嘆願・陳情」に過ぎないもんや。

◆ ひところの「ワレワレワ」話し合いを断り貫徹し、申ったゾーでは、もうダメなのやね。

◆ でも、事実を見ずしても結果は同じやろ。

◆ いや、「民主主義は何と云うても話し合い」なんていう幻想が崩れる。物事がはっきり見える。

話し合いを逆手にとる

◆ どんなふうに見えるん?

◆ やーに、相手は「話し合う」気持ちでこれ、ぼっちもない。カ
ずくでやろうとしている。「かし、いつも「話し合う」て「風」にみ
せかけるのは、その偽装を絶対必要としているからや。

カニに、それから、話し合いの必要は、ぼくらの方にあるという以
上に、相手側にある。

こちらが話し合いを求めたら応じてくるのはその為やし、理由なく
断れない。

◆ としたら、こっちの「話しあえ」という手は、まるっきり相手の
フットロにくり込まれて、あべこべに利用されていることになる?

◆ そうや、それから、こちらで「話しあえ」をこちらの戦術的武
器にする、という転換をはからんとなあ。

♥ 「戦術的武器」といって、またムズカシイことが出てくるの
とかがうんかいな。

◆ いや、ほんの簡単なコトや。

それで胸のうちにスウィーとして、もう出た題の「ケド」ツクリ。

◆ エライおもしろそうに云うけど、ほんまに……

一 方的宣言でエエわん

◆ あんたも簡電との「話しあえ」に出た経験あるやろ。

やりとり陣まながら、もう胸の中がウズウズして、どなり出した
い。しかしそれやったら「ケド」ツクリや、とガマンして黙ってたい

「うごかないか」

♥ ある、ある。

◆ そのとき、ガマンやめて、大声でみんなが「本心」をどなって
したらエエわん。

♥ うち、一回それやった。どなりながら机バンしたいたった。
◆ たとえば、いま「北電」や「県庁」の「話しあえ」の席に出
たら、何をいちばん云いたい?

◆ それ、いいことはただひとつや。

「うちは原発いらんわん。いまずぐ何が何でも原発やめてほしい
」もっというて、「一方向的に原発たてようとしてるくせに、話し
合ってもあるかい。いまここで一切の進行を止めます、いうたら話し
合いたる。」

「そちらがいまのままなら話し合いはでけへん」

◆ そうや。それやわん。向うが又ウワラ口先までの「まかし」云
出したら、みんなで声をかぎりにどなったらエエ。いっせいに。
それから一人づつ順番にー。

あ、もうしちゃった
ではすめへんなんぞ
原発はー



◆ 向うはビックリするぞ。

◆ もっとビックリさせるんやったら、まとめとして「シユプレコ
コール」

◆ わかし奥電の和歌山支社へいって、ギロニが誤着したときやつ
たナア。

◆ 先方、度肝ぬかれて、もうヘゲモニーはこっちのもの。うちら
節下を子も行進して出てきた。

◆ 「話しあい」いうけど、個人を説得するのところがうもんな。

◆ 「一方向的に原案だてようとしてる」機械に封じて、こっちも最後
は「一方向的に反対の本心を宣告する」しかないねん。

◆ このことを、はじめから自分の中ではっきりしとかんとな。

◆ そやそや、技術論や安全論をゆうてたら、うちなんが口出す時
あれへんけどそれやったらできる。

◆ 簡単やし、オーオもろいやん。

◆ いや、それだけのことで終ったらひとり
満足。

◆ つまり、密室みたいな敵の会議室の中へ
引き入れられたら、何ぼ「宣言」したかて、
壁に吸いこまれて立消えや。

◆ そして「話しあい」のか、こうは、やつ
ぱし相手のものになる。

◆ そういう意味では、県庁でのごときに、
マイクを持ちこんで、外にも同時録音中継



するようになってたのは面白いアイディアやったね。うまくいかんか
ったみたいやけど… (時々)

◆ でも、まあ、今まで「話しあい」でまあまあうまくいこい
たとしても、こっちのひとり満足ゆうことやま。

徹底的追及の大芝居

◆ そこで、もう一工夫や。ここまでやる以上、もっと徹底してあ
そろるさを楽しまんと。

◆ まだあんの。

◆ 「話し合い」のときは、たとえば富山でなら北電本社石段
のついた玄関とか、ロビーとか、敷地の芝生の一角など、ふだんは
ねがって使えんとこがぼくらの格舞台や。

◆ 繁華街にあるし、行きずりの通行人、市民、来訪者など、あつ
める気になれば、一ぱいの観客もいるというわけやな。

◆ これだけスゴイ道具立てが揃って、あと足らんのは「主役と
ワルの脇役」これはすぐ面にあうとして「筋がき台本と演出ぐら
いのもの。一人だけ誰か世居ッ気のある者があつたら、まあエケ
ど。

◆ 上演時間せいぜい10分くら分やから、ぶっつけ即席でも何とか
なる。(これこそ非暴力トリーニングの「ゲリラシアター」)

◆ 悪役は、いわずとした社長や社員たち。(社長が出てけえへ
んとときは代役で結構。偽物の方がセリフがあつとうまい)

◆ もちろん主役はぼくらもふくめた群衆！ 劇の、さあ、あ、はじまりはじまり。

これぞ、宣伝戦争、

◆ もひとつつけ加えたら、最後は北陸路にちなんでの「安宅の関」、并座よりしく反席、著名の一枚一枚朗々と読みあげての勸進帳ならぬ大宣言、その背景をかざる歌劇舞踏団の盛装官隊とのパフォーマンスも劇中劇にとり入れるという「大芝居」。ハイオム通信班号で紹介した「風の旅団」のやり方がエエ本！

◆ なんが状況がうかんできくるな？

◆ この大芝居にどれだけヤジ馬達の観客を集めることが出来るかがひとつの勝負のしどころ。

◆ 北電本社前やたら50人集ったら交通まひやけど、ヤジ馬をその簡単に排除するわけにいかん。

◆ それだけ大さわぎになれば、北電とびったし麻着の地許新聞も書かんわけにはいかんやろ。

◆ としたら、それ何百万円の広告に匹敵するで。

◆ と云ったらエライ調子エエ話になったけど、そんな大芝居がいまの運動にできると思う？

◆ できるもできる出来る。カーに室内からはじまったシユプレヒコールの勢いや。そのときの勢い気がそれを要求してるんや。

◆ でも、そんなにアツサリのってくるやろか。やろ？ 思てよびかけて、みんなにシラッとしてくれたら、もちもあつしもでけへん！

◆ そう大げさに考えたらアカン。たかどッゲリラシアターにゃんか。やれるようにしてやるというのが基本や。

◆ 自分はともやうせんと思えば見物にまわって、見物役として何するか、考えたらええというこやな。

◆ そういう考えがみんなにあつたら、簡単にやれる。

◆ 向題は、自分らの本音、本心をどう表現するかいうこや。それさえはつきりしてたら、一番はじめの先鞭をつける意味で、せんなんが好きな劇団に「悪役」をしてみたり、演出たのんだりしてみエエやろ。

◆ しか

し、コみ

んなのお

もいのこ

もった神

聖な署名

筆を渡す

という重

大なこと

を、せん

な軽ハワ

なバカさ



わざと処理してエエのか、という声があつて出てくる。

◆ それや、それが電力や県が一番よるごぶごのやわねで。

こつちが署名簿に思入れをすればするほど、何とかカッコつきたいという本音を見透してつけこんでくる。

◆ あいつら内心中署名なんてバカにしきつてゐる。疲れたら紙屑や、シュレッダー行きや。

◆ 署名をはじめから侮辱し、バカにしてるやつらの内心を、どうしても表にひきずりだして、観望にみせるせしモニーが大芝居な

んや。
◆ でした。おいちやんがまえからいつてる「反原発運動は、何より八官伝戦争」なんや、というやつや。

◆ つまり「話におい」も「申入れ」も「署名簿」も、徹頭徹尾「市民世論」にむけて、ということをいつも意識した八官伝、というやつや。

② 本気やったら 突入してみよう

◆ 八官伝戦争の視点ですべて行動を点検する。方向を云つてしまつと、もう何をとりあげても二番三番やけど、具体的に二、三補足するとして……

◆ うん、まず北電でも石川県庁でも予備交渉いうて入口で「こちや人数のことでもめてたけど……」

◆ 1月25日の高松交渉では、四電の対応がのんびりしてたせいも

あって、半ば偶然、どおとみんなが社内にはいつてしまつた。あれはスゴかった。

◆ あれで、完全にこつちがヘッモニーをにぎつてペースをつくり出したかんじやね。

◆ 四電の対応がのんびりしてたとか、偶然とか、いろいろ条件がよかったということもあるけど、それでもなんといつても、どうしても全員中に入れる、私らの話を聞け、というその迫力の中味が、けびきなしの本気でいつてたことのパワーやで。

◆ いつも、そううまくはいかんけど、そんな時そんな時の本音の本気がやり方を生みだすんや、いうことをつくづく思たね。

◆ 北電本社では代表団が最終的に五人、その反省もくめて金沢では全員が代表団としてはいろいろときめてたけど……

◆ しかしどこまで本気やったらんかちやうことになると……

◆ 朝八時半に県庁前にあつまつて九時になると予備交渉で「みんな入れる」とまず申し入れがはじまつた。

◆ けど、むしろはそれを絶対みとめる筈がないから、それ本気で云うてるとすると自分からすすんで「雪隠詰め」になりにいくようなもんや。

◆ 「全員ではいる」を本気で云つたら、それなりの作戦といつか来る。

◆ 作戦というのはどのもんやない。交渉団だけにまかせらんやなしにいまかいまか、千ヤンスを狙う姿勢や。ちよつとした機転や。

◆ 県庁玄関前の、それも石段のところで代表団と出てきた五、六人

が何や「ちや」ちやいうてる。それを知らぬ40人がとりかこんで、時々ヤジを入れながら南にいてるという風景。

私服はちよと離れたまわりにたくさんいたけど、制服の姿はま
だない。

その他、やりとりから離れて玄関前の広場に三々伍々たむろして
ときどき宣伝カーがしゃべるのをぼんやり聞いているのが50、100人ぐ
らい。

◆「や、いま玄関の群がりのうしろからワッ」と一押しおした
らける。代表団ごと役人ごと押し立てていっききに二つぎ三つ
きでロビーへなだれこめる。

「よっしや」「やったろ」

◆「そいでうちら三、四人みんなの中にまじって、急に大声で、
「サア、中へはいろ」「おしてはいろ」「みんなではいろう」「ゆう
て、そして」「ワッセー」「ワッセー」やりだした。

◆「それならまわりの仲間うちから」「おすな、おすな」「暴カやめ
て」「話し合いにきてるんやから」……悲鳴まきこえた。

◆「あ、とき、ペーパーサートの人形、テツとチエがみんなの首から
のり出して、ずんずん先頭へきて役人と対峙してゐるのがめだつて
たね。

◆「おして入ろう」「いいながらぼくが前へすすんでいったら、立
止ってがんばつてゐる代表団に、必死の顔でどなられたには参い
ったす。

◆「だんだん玄関に役人が入口をふさぐために出てきて、おしても
(中から)

びくともせんようになってきて、「おしてアカンなら引いてみよ」
いうて、力技いたら、どつとび隊がくずれてんけどま……

◆「ぼくらのやり方やったら、代表団は「押ししたらアカンアカン」
いながら押されたふりして中へとびこんで道をひらくんやけど……
あれほんまに惜しいヤニスやったな。もう10人ぐらいあの意
味わかる人いたら中へはいつて、全員坐りこんでしもて、ちよと
はおもろい展開になつたかもね。

◆「まあ、「ワッセー」「ワッセー」のなだれ込みが「非暴力直接行動」
の真本やとまでは云わへんけど、「暴カやめて」なんて云われたの
には、ほんまに「ガクン」ときた。

◆「ここで「非暴力」とは何か云う気ないけど、ほんき本気で中に入
つて、中に入ることでこっちの要求を聞かせる、権力に対しての行
動を「暴カ」なんていわれた日にや、たつせ
(味方) (ため) がない。

③ 排除と非暴力直接行動

◆「ちよと又あと戻りになるけど、ぼくが富山へついたら午後
4時すぎ。タウシー急がせて来ると市電が走ってない十字路の一
角に比叻本社ビルが見えてきた。その玄関先の歩道で、喰つたり踊
つたりしてる20人ほどの輪をとりかこんで、二百人ぐらいの人がバ
ラバラたむろしているという感じやった。

警察官隊はどみまわすと、路をへだてた向い側に目立たぬように

30、40人ぐらい控えている。

裏にも町があるというので、大阪組をさがしながらぐるりと一週、裏口では現地地区労働の人たちなど知らず知らずが代表団の報告を待って隊列のまま坐り込んでいた。

◆ それにしてもホリはおくられて、息をきききってかけつけたというかんじやったんで、みんなぼんやり群れている状況が、えらいのんびりにみえて、ちよつと拍子ぬけや、たまや。

◆ みんなだんだん待ちくたびれてた頃やね。三時すぎから二回おまわりが道を渡って規制するぞーという警告的ちよつ、かいを出してくれて、そのときはみんなちよつと落着いてたんやけど。

◆ それ、利丸さんに出会ったときすぐ聞いた。それで、もうちよつとしたら、三回目の最後の警告をして、こんどは排除ぐらい



やるつ
もりで
渡って
くるな
と思っ
た。
◆ 4
時半頃
にとう
とう排
除がは

じまった。

◆ ホリが道を渡ってくる前に、さしずめ玄関前のおどりの輪の先頭がおどりながら歩き出して、うしろが続くという形でみんなが動き出したら、と思っただけど……

踊りの先頭でさえみんなが動き出したけど、うしろが続かず、又逆もどり。

◆ とうとうおまわりが出てきて、アツというまに踊りの輪はくすれても、マイクをもつて、囀った人は、おまわりに対して抗議のアピールをはじめ、輪のところに地区労働の人をまじえた10数人が坐りこんだ。あとは、おまわりのまわりに見物人みだいに、つ、立てるーというかんじ。

◆ もうあんな事態になつてしまったら、全部がい、せいに坐りこみ（ス）ペースがあればねころぶというのが一番ええんやけどな……。

◆ で、そんなときは絶対「無言」でハワアワアアうても、おまわりには負け太の遠吠えとしかきこえ（ん）しいんとするとおまわりの側の暴力性が目立んや。

◆ ところが、大声だして騒ぎだてる人がいると、坐りこんだ人もどうしたんかと、ついつい立上るんやね。

◆ そうなつてくると、坐り込みがぶされた上に、排除で両手を握られ、背中つきとばされて、自分で歩かされることになるから、まるでおまわりの執行了助けたようになつて、しゅくの種や。

◆ ふう子さんは騒ぎです。ほり空いた輪のまんなか長に長いこと坐

ってたな。

● うん。おまわりさんてのは、ほんまに命令でしか動かん人らやねんな。地区労の人らが道路をわのところに坐りこんではって、ほかの人もそこから排除するといつかうかうで、おまわりがその人たちにむかって隊列を組んでるから、そのうしろはホッカリ空自状態やねん。おまわりのうしろに一人坐ってても、そっちむけといわれんかぎり、私はほっておかれたんや。

◆ 地区労の人らが喉々にもってかれても、まだ一人とり残されて、やうと最後にくちにも番がまわつてきて、かかえてつれていこうとしはるんやけど、^{やめ}体をぐにやぐにやにこてるもんやから、二人ではとてもようれを持ち上げられんや。何どもスパスパ落とはんねん。で、ついにそのまゝ。

④ 移動・即応・転換

◆ せろせろまじめに入るとして、その前に、こんどの富山・金沢行動で気付いたことで、そやからゆめ、島根でも出てくる「状況」で「今頃どうするのがエエか」・ほんのちよつとした部分やけど、提案したいねん。

◆ せろせろ聞きたい。

◆ 例えは金沢では二日目やし、朝は6時おきやし、くたびれもあつて、バスから降りるとそのままだらだらを奥前空地にちらばつてたむろしたんやけど、何となく休憩という感じで、見物人になつてしも

てた。

● うん、でもそれは、^(なんとも)交渉するのは地元の人らがしはる、といつかんじがあつて、みんなまてエーいう呼びかけもなか、たし、交渉してるを、開口はせまいし、はみだしたもんは手待ちいうか、休憩いうか、何をしたいかわからへんもん。

◆ まあ、三、四時間もあるんだが、あんなやから緊張もある代りくつろぎも要るけど、びびりニックとていつかは「待機姿勢」があつて、くつろぎやでな。

◆ 「待機姿勢」やう、ちよつと具体的にゆうてみてー
うん、いうたら……

① いまこの玄關の状況が A (いづつ)まで続くやうか
B (いつ)まで変化するやうか

② どんな結末になるやうか。(どんな変化が起るやうか)

③ その事態にどんな手法で対応するのがエエやうか。

④ その対応を宣伝戦術として、どう活用できるやうか。

● うん。それはもつとまなことをやるけど、しかし、それをみんなに求めるちやうのは、ムリとゆうもんやで……

◆ いや、今迄にあった同じような状況を思い出して、それがどうなったか、そのときのやり方とちよつとだけでもちがうやり方を考えたええんとちがうか。それから実際は、みんなが考えんでも、まあ20人に一人以上いたら、その一人の動きがみんなにつながるやうな申し合せをしとくとか……

◆ いろんなところから、いろんな人がてんでばらばら集つてるんや

から、一つのかたちにとまどってうごくいうのはなかなかでけへん。
♥ それに、そのてんでんばらばらが、てんでんばらばらに動くの
がいままでの運動にない魅力やし、パワーやんか。

◆ うん、そやからちよっとうまいこと云えへんけど、日程表とか
フログラムとかのぐらに、四国高松で出したあの三ヶ条のようなも
のに加えて、行動方針として「移動・即応・転換」いうのを入れと
くこつちやな。

★ え？ そんないきなり漢字使わんといてんか。

◆ つまり、行動中に、状況が停滞したり、誤着して、はつきり判
らんけどおもしろないとか、いつのまにか自分がつんぼさじきの見
物人になってるナ、と感じたときは、自分が自分ではなく行動のマ
スになってしもてるんや。

自分が選んで休憩してるんならともかく、そんなときは大てい次
の何かがあるのを待ちながら一定の場所にたおろしてる場合やから、
そう感じたならまわりの人にもゆきかけて、①「移動」つまり「動き
をつくりだす」ことで主体的状況を変える、ということや。

◆ 金沢・富山の場合やたら、例えば列つくって歌ったり踊った
り、シヨプレしたコールしながら、たむろしてる場所がせまいことな
らA棟からB棟への往復でも、ひろければぐるぐる建物の一周デモ
10分やって五分休けいというふうにとにかく動き出すこと。

あるいは②「その動きにみんな呼応して、そのうしろに続くとか
独自の動きをはいめること」(「即応」)。とくに緊急系が出て
くる直前の場合など、この申合せですぐみんなが整列と動き出した

らその規制を空振りさせられること間違いないし。

◆ その二つに加えて③「いまの状況を変えること」「転換」。
動くことで状況はかわるわけやけど、それ以上に、例えば歩いて
いたのが突然走り出す。あるいは動きを急にやめる一となったたら、
命令でしか動かれへん警官たちは、全く対応でけへん。

♥ そうか、行動方針としての「移動」「即応」「転換」やな。
★ それが「非暴力直接行動」なんや。

⑤ 評価ー高松・東京・せびー

★ こんどの富山・金沢行動、NくんやR子はんら、もろつつおも
るなかつたナ、というたけど……

♥ うち

は、知っ

ている人

たちのと

ころやや

うことで

の気持が

があつて

けつこう

のびのび

させても



うたゆうことはあったんやけど、おもしろかったと聞かれたら、まあまあ、いふところかな。

● 帰りのバスで「いつちよかみのおははんの会」の人らは「行てよかった、」と云うてエライはりきってたな。

● 彼女らは「日夜志願所に泊って地元と交流したあと、朝のあけ方までかかって寄せ書きのじょうをつくって戸毎に配ったんや。」

● そんなふうな、とくに自分がやった、いうことがあると忘れられん。

● で、おいちゃんは？

● ぼくの興味は「こんどはどれだけ新しい試みが発見できたか」で、シンボルタワー付近にむらさきつゆくさを植える牛配とか、交渉に有線マイクをもつて入り、宣伝のスピーカーで流すとかはバツガンやったけど、その他は（地元では珍しく新鮮でも）大体がニ番ヤンジやよって、まあ△。

しかし、行動いうか実行の主体は「能登現地」その周辺、富山金沢、さらにそれぞれのいくつにも分けたグループ、個人が従来の経路、新旧・大小に関係なくそれぞれが村等で、それに全国各地からおしかけたばくらが一しよに加わる（これからは実質的にはこんどこの方式になるやう）という新しい「行動方式」の実状をみたこと。また「現地主義」を起しようとしてなかなか起えられない現実を経験できたこと、では○。

● 考えてみると、評価いうのは、その人がどれだけ本気で行動をやったか。又はやれたか、で決まるもんやな。

● ひとの本気が感染して、自分も本気を出したとか、はじめの経験で新鮮でびっくりした、おもしろかった、もあるで。

● 例えば高松を経験した人は東京の二万人でも物足りなかった。ところが高松を知らず東京に感染した人は、東京に比べて、やっぱし……という感想やたんやな。

● 金沢周辺で最近新しく動きだしたばかりの女たちは「日夜の交流会で、口々に「よかった、」というてた。

● 高松は何の用意もなしに行った者も、それなりにみんな主人公の気にさせたよね。

あれは自分の責任で何してもいいという自由さがある、その自由はふたふと躍ったことのない人もついつい躍れたというだけのことやけど、自分もやったという充足感をみながもてたということなけんや。

● つまり、今までは「現地」という主人側がまわって、かけつけた者はそこにあいさつせねば何もやれんと鬼いこんであり、事実やれることは「応援団」か「兵隊」。

● そのしきたりと行動方式「現地主義」も、高松は「みんな一人一人自分の責任で勝手にやるのがエエ」ということで、あっけなくあっさり無意識で、のりこえたんや。

● と、すると、富山・金沢では、そのところがまたちよつとあと戻りした、いうこと？

● いや高松は、正確に云うと、現地やないというか、せいぜい疑似現地やねん。それで現地の現実の状況や条件をあっさりどびこえ

られたし。(もちろん都会でも「現地主義」的だから、それだでも大したことにかわりない)

⑥ 現地主義とは何か

◆ せやから富山・金沢(そして次の島根)にとつては、現実の状況・条件としてある「現地主義」が、あの高松のように、あっさりとはびこし・通りすぎてしまえないところの一改めで、いま自分のところからはじまる切実な課題ということなや。

♥ 現実の状況・条件としてある「現地主義」をよめ……

◆ あつさりいうて、それは、この20年固反原義運動をひたすら持続してきた力やし、そのなかでつくられた運動の方法のスタイルの伝統の重みといつてもええけど……

✦ せやないやうくと、えらいエエもんになつてゐるなや。

◆ 反原義は本来、人々の生きかたをええ、価値観の脱原義社会へ向う運動や。ところが現地の関係者に何とかガンバつてもらて、私らは応援してそれで原義をゆるすという「現地主義」の運動にずいとなつてきたいふことがあるや。

♥ うん、せややなや。

現地にこりかたまって運動を中つてきたなかで、だんだん「統一と団結」至上の思考で、やり方が形式的になり、行動も硬直してきたいふところやなや。

◆ いま反原義の新しいもり上りは――

「お基までするする原義が違つてきたけど、本音、本心でとめるいふ気があつたんか」

「自分のおもいをありったけ出すのに、誰に遠慮するやん。原義は自分のことや」

「現地も都会も立場は同じ」

「せまりきつた今迄のやり方ではもうアカン。オモロないし、元氣も出エへん」――ということから出てる。

♥ せやけど、現地で孤立して、一生けんめい闘つてきた人を見たら、そうズケズケよお云わんわ。

✦ 金沢へいって、こゝ

ちはよそもんやいうえんかついてあつて、まづ

富山・金沢、せや

よりもつと現地の能登とその立場を尊重してこ

まう……いふこち

らの側の「現地主義」が、自分の

行動を規制してこ

まう。



を持っていかねアカンのに、あてなしの一切あきらまかせで、やっぱり牛伝いにいく、いうことになってしまっただもんな。

◆一才で安易に、一才で遠慮して、自分から「村等」を下りてしめるんや。

自分の中の現地主義

●まず自分の中の現地主義を克服せなアカンねえ。

◆「高松みたいに、こっちが何も考えんでも、気楽に発散させてくれ」という期待で行くんやったら、もう二度と、高松みたいなことには出会われへんのは確かや。

◆高松は、一生一どの経験か？、それに出会ったということでは、なによりないな。

◆富山・金沢行動でぼくが教えられたんは、「運動の古い、いろんな弊りをひきずって（ぼくも同じ）いる人々と一しよの行動の中にびこんで、失敗のくりかえしを厭わず、立前や形式を捨てた自分の本意と本心で動く」とことで「現地主義」を打ちまっぴりすつでも超えるのがいまのぼくの課題や」ということやった。

◆余白の関係で、金沢で出た逮捕者の問題などふれられなかった。

◆現地主義については今までで時々ふれてるけど、ここだけのものでは不十分で、誤解をおとれている。

非暴力直接行動としての

電話作戦について

同時刻に許容量以上の電話が集中すると回線がパンクするという話。でなくても先方は業務電話がつかない一定の圧力になる。

○申合せて同時刻に集中して抗議電話をかけ、その電話回線を一定時間占拠する。

○例えば「連絡むら見本」

○緊急、全国でいっせいに

日時 7月 日午前 時

（時間ぴったり厳格に）

・宛先き0852-27-1113

・中国電力松江支社

① 通じたら「島根原発

2号炉試運転をやめて

下さい」「何日に試運

転やるんですか？」「あ

るいは無言のまま。そ

してそれを引続き数回。

② 話中なら30秒位おいて

切る。一分後かけ直す。

③ まだ話中の場合つながらるまで②のくりかえし。やれる女の時間。

電話して下さい。

要は全国から五百通もかかれれば、相手は大恐慌のさ。



旭まちから

▼ 6月1日(水) 福岡
Tシャツ訴訟公判。一時十分から。三ヶ月に一回の割合であるやけど、なんやすぐその日がくるというかんじ。

原告として行っているというより、うみの会の人や傍聴にきてくれはる人たちが会うのが楽しめで毎回行っているようなもの。次回あたりからいよいよ法律のなかに味にたち入って、理論闘争が展開されるようです。(公判の報告はハラハニュース参照下さい)

▼ 6月2日(木) 5月26日に南電に対して申し入れをこしていた件(四十人さま無料現地ツアーなど)というたがらかし宣伝に対する(で回答をもらいにいく。40人くらい集って、中に入れたのは10人。マスコミはざいぶんきてた。入れなかったものは伝令という二つで交替で中のような見にいってたけど、私が見にいって、た時なんか、南電の二人の社員相手に、あ、ちからもこつちからも、次々にモーレツな質問攻撃。いや、みんな案にいろいろよく知ってる。よお勉強している。うちはやどならなんぼでもポーン出せるけど……ほんとんど感動してしました。しかし、なんぼこで相手をつつてもしよせんカエルのツラにしよんべんやもんや。▼ 6月5日(日)「ハラハラつうしん」作り。ホッピーが旅に出てるので、彼が帰ってくるまで編集をやることにする。▼ 6月6日(月) 虹の会・WRで支援連ミースとははらつうしん発送作業。Nくん、R子はん、Oくん、さん。

▼ 6月7日(火) 能登の西海漁協から7月ほどまえから魚の産直運動してきはった山下さんに、能登原発の状況について話を聞く。都合の悪い住民投票は焼きすてしてしまうとか、県が、かつてに海洋調査を徳島もかけてやって、それきり徳島で北電にまわったとか、まあ聞けば聞くほどムキムキややつとんねん。しかし、そんな話新聞に出てたか。うちは全く知らなかった。でも知るのはどうもつだけやなかった。もっとこれはせぬが大騒ぎせよあかんことや。原発は、たんに原子力発電所が廃棄まじやというだけやすしに、それをつくりあげる過程の中に、ありとあらゆる腐敗と汚染がつまっているという二つや。

▼ 6月10日(金) 朝7時の分の特急で金沢まで。そこで金沢のひとたちと合流して富山へ向う。途中高岡から甲山救援会の地元さんもいっしょになる。銀行だと金沢から富山はほとんど一時間。

▼ 6月11日(土) 行動二日目になるとホトホトくたびれてしまつて、夜はダウン。向井さんや他の人は交流会にも出たりして夜中一時ごろ宿に帰ってきたけど、おはためし合せてつら入って、9時ごろからグーグーとこのもいさんと寝てしまった。

▼ 6月12日(日) 赤佳(。先月来たときは鉄塔が根風やつたのに、なんと首に赤いリボンなんかつけてもらって見ながさるようやった。あんな高いところにリボンつけるなんて、ただ者ではでけん。あれやこれや受け入れする人たちはたいへんやったやろなあーと胸が熱くなった。原発敷地内に入って、つゆくさを植えたけど、あれちゅんと植えたやろか。井沢さんにもう一由。

(原発に強く反対している)

▼6月16日(木) かたつむり連続講座再開。この日の講師は玉光慎正さん。玉光さんにとって死刑廃止の運動をするのも話をするのも、念仏なんやという表現をしてはった。念仏は、行動様式なんやと。それから浄土というのは、反自他思想でもあると。このおぼろさん、なんとカキでうさカルやとうれしくなっちゃった。

▼6月21日(火) 虹の会例会。前回二人きりやったんで、おしやべり会として案内したら、まあうれしい七人も集った。原案の話からバウダンの話から、なんとカキメイというこぼれ話までしたりして、議論白熱。それも半分帰ったあとのQ時すから徐々に盛上ってきた。しかし、なんでも話はしてみるもんや。お互いがあると同じように思ってる、と、思ってたことが、でんでにちがうんやから……。ちがうということは刺激です。

▼6月22日(水) なむの会、数異抄を読む会を一日ほど前からはじめた。講師はかたつむりの会の木下さん。一応この日で一冊読みあえたんやけど、会の方は、まだもちょうと続きそう。

▼6月24日(金) かたつむりの会例会。梅雨らしく朝から雨。次その会報と7月21日く27日まで「ゆいま」を借り切って死刑廃止のためのブックフェアを開くので、その打合せ。ハミたちが野菜を売りにきた。じやがいもと玉ねぎを買った。

▼6月25日(土) 非暴力直接行動・イオム、発送作業。太田くん、坂さん、坂やん、手伝いにきてくれる。発送作業なんてのも一人や二人でやっていると、だんだん世の中嫌になっちゃって、どうせみんなも出たから誰か読めんのになんて思っちゃって。三人に感謝。

宇和島市奈加岡乃安以古止葉 喰牛似乃里夫



★「女と反暴発」第二刷三百ほどつくって売られたので、また三百つくりました。オニ刷です。でも、それも、もう50部ほどしか残っていませんが、ぜひぜひ、買って読んでみてください。

★さいきんめ、さりWRの仲間の会言葉を忘れてしまっている仲間が多い。「切牛にノリを」。忘れた人に、念のためにいいますと、郵便局の人手不足から郵便物のとりあつかいが複雑で、せうかく、これは切牛がはかれることが多々あるんです。そうすると相手方に超過料金を払わせることになり迷惑です。そこのWRの仲間としては、どうしても、切牛の下にノリをつけることはもちろん切牛の上にも、このねいにノリをつけましょうというわけなんです。ノリは大和ノリを使用して下さい。化学ノリは毒ですから。

★私ども、それから切牛コレクションをしていきます。こちらから送った郵便物の切牛は切りとっておいで、ついでのとくにしむントしてください。助かります。

★直接行動紙は、毎回千五百円へできれば封筒同様に枚数をこしです。切れてくるおニニ3あたりの人送って下さい。

★印刷機購入カンパよろしくおねがいします。

